朝日新聞

2021年（令和3年）
8月19日
木曜日　夕刊

朝日新聞東京本社
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話 03-5541-0131 www.asahi.com

| | |
|---|---|
| 円・株 | 7 |
| NEWS＋α | 7 |
| 社会・総合 | 8 |
| 社会 | 9 |
| TV・ラジオ | 4.10 |

ビルと人とのハーモニー
中央土地
http://www.chuotochi.co.jp

**楽しむ** music & theater
3年に1度の「世界バレエフェスティバル」が東京で開催中だ。来日したトップダンサー4人がコロナ禍を生きる思いを語った。2

1998年 長野　長野大会のチェアスキー会場で、ドイツ選手と言葉を交わす清水一二さん（左）＝長野・志賀高原、清水さん提供

Sydney 2000
2000年 シドニー　シドニー大会、男子車いすバスケットボールの試合。キャットウォークから撮影した

04年 アテネ　アテネ大会、陸上女子5000㍍で先頭を走る土田和歌子選手（右）

# その姿 撮り続けた40年

## パラスポーツ発信「知る第一歩に」

パラスポーツを追い続ける写真家の清水一二さん＝横浜市旭区、遠藤啓生撮影

約40年にわたってパラスポーツ選手を追い続けてきた写真家の清水一二さん(67)が16回目のパラリンピックの取材に臨む。会場や街に障害のある観客もあふれる光景はコロナ禍で遠のいたが、「パラリンピックは障害者を知る第一歩」との思いは変わらない。直接見られないからこそ、レンズを通じた発信が重要になると考えている。

パラスポーツとの出会いは43年前、大学卒業後に就職した神奈川リハビリテーション病院（神奈川県厚木市）だった。事故で切断を余儀なくされた患者の足や腕、傷口などの撮影を担当した。写真は、術後のリハビリや義足製作など患者の社会復帰を手助けする重要な資料になった。

「1人の人間にとって人生で最もつらい瞬間を記録していました」。ファインダー越しに見える現実に、清水さんはたびたび落ち込み、何度も辞めようと思ったという。

そんな状況でも続けられたのは、外科医や義肢装具士ら職場の仲間の存在だった。「患者の将来」を徹底的に考えぬき、切断する骨や肉の位置を細かく決めていく姿に、仕事を続ける意味を見いだした。麻酔から目覚めて絶望する患者には、カメラを置いて一晩中寄り添った。

### 楽しむ姿記録 「自己肯定に」

職場の病院の受付に、転落事故で脊髄を損傷して車いす生活を送っていた女性がいた。昼休みにテニスをしている姿を撮って写真を渡すと、とても喜んでくれた。さまざまなスポーツに挑戦する障害者にレンズを向けるきっかけになった。

「スポーツを楽しんでいる姿を記録することは、障害者の自己肯定につながる」。そう実感できた。

最初に取材したパラスポーツ大会は、1984年にオーストリアのインスブルックで開かれた冬季パラリンピック。当時日本人カメラマンは清水さんだけだった。スポーツで再起する障害者の姿を常に追いかけようと、30代半ばでフリーの写真家に。自宅近くの学校の卒業アルバム制作などを請け負い、出張費用にした。

16年リオデジャネイロ大会でパワーリフティング8位となった大堂秀樹選手(46)＝SMBC日興証券＝とは20年以上の付き合いだ。「ちゃんと稼げているのか心配になったこともありますよ」と大堂さん。写真展や学校での講演などで障害者への理解とパラスポーツの魅力を伝えてきてくれた清水さんに感謝する。

清水さんは、東京パラに向けて企業がパラ選手の活動を支えるようになって遠征費の工面などに困らなくなったほか、街のバリアフリーも進んだと感じる。理事を務める日本車いすフェンシング協会にも企業からの協賛が増えた。清水さん自身も撮影依頼が増え、出張費などのサポートも受けられるようになった。

### 今は「バブル」 勝負は大会後

一方、大会後も障害者やパラスポーツへの光が当たり続けるか、不安な面もあるという。「今はちょっとしたパラバブル。むしろ東京大会の直後からが勝負だと思っている」

苦い経験がある。98年冬季の長野パラだ。障害者の社会復帰の手段としてのスポーツへの理解が急に広がり注目されたが、その熱は一時的だった。

清水さんは言う。「病気、事故、そして災害。誰でも障害者になる可能性はある。どんな時代も社会の一員として彼らが存在感を示せるよう、パラスポーツの魅力を発信し続けないといけない」

（遠藤啓生）

12年 ロンドン　ロンドン大会、シッティングバレーでオランダと対戦した日本チーム

16年 リオ　16年のリオ大会に向けトレーニングするパワーリフティングの大堂秀樹選手＝15年、いずれも清水さん撮影

## NEWSダイジェスト

### パラ開催 尾身氏「状況を踏まえて」

政府の新型コロナ対策分科会の尾身茂会長は19日の参院内閣委員会で、東京パラリンピック開催の是非について「オリンピックの開始時期(7月23日)とパラリンピックの開始時期(8月24日)を比較すると、いまの方が状況がかなり悪くなっていることを踏まえて色々なことを決めてほしい」と述べた。立憲民主党の杉尾秀哉氏の質問に対する答弁。一方、政府などから専門家としての意見を聞かれたかについては「パラリンピックについての意見を聞かれたことはない」と答えた。

また、小中校生らを対象にした東京パラリンピックの「学校連携観戦プログラム」について、尾身氏は「状況はかなり悪いので観客を入れるのはどういうことか考えていただければ当然の結論になる」と否定的な考えを示した。

### 米、来月から3回目ワクチン接種

米政府は18日、3回目の新型コロナウイルスのワクチン接種を9月20日から始めると発表した。2回目のワクチン接種から時間がたつと、感染力が強いデルタ株などに対する免疫が落ちるというデータが出てきていることから、追加接種で免疫を高める「ブースター」が必要だと判断したという。

3回目の接種は、ファイザー製とモデルナ製を2回打ってから8カ月経過した18歳以上の人が対象。米国では昨年12月にワクチン接種が始まったため、優先して1、2回目のワクチン接種を受けた医療関係者や高齢者の人たちから、3回目の接種が始まる。

米国では今夏に入って急速にデルタ株が広がった。ホワイトハウスの新型コロナウイルス対応チームは、デルタ株の拡大にともなって感染を防ぐ効果がファイザー製が76%から42%に、モデルナ製は86%から76%に落ちたというデータを重視した。（ワシントン）

### バイデン氏、撤収期限延長も示唆

バイデン米大統領は18日、アフガニスタン政権崩壊後初めて米メディアのインタビューに応じ「混乱を引き起こさずに撤退する方法があったとは思わない」と述べ、米軍撤退作戦が失敗だったとの批判に反論した。米国民の退避を完了させるため、8月末としていた米軍撤収期限を延長する可能性も示唆した。

バイデン氏は米ABCのニュース番組でインタビューに応じた。7月に「タリバンが全土を支配する可能性は非常に低い」と述べていたことについて問われ、「情報機関に統一した見解はなかった」が、年内には（タリバン支配が）ありうるという見方があった」と述べ、以前の発言とは食い違う見方を示した。米軍撤退作戦がなぜ失敗したのかと問われると、「アフガン政権の指導者が国を離れ、治安部隊が戦わずに崩壊した。我々に残されたのは予定通り撤退するか、短期間延長するか、部隊を大幅に増強するかしかなかった」と述べ、混乱の原因はアフガン政権にあると主張した。

また、アフガニスタン国内に残る米国民については「我々は全員を退避させるまで残る」と述べ、8月31日としている米軍駐留の期限を延長する可能性があることを示した。（ワシントン）

### 素粒子

断層の生データ書き換えで原発の審査中断。正しい情報なくして判断できぬは当然。

△

1年前、GoToに執心の首相。いまの判断は見聞きしたくない情報も踏まえてか。

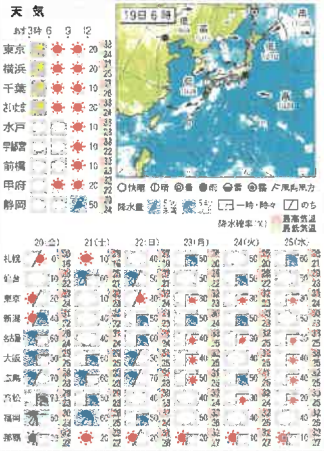
△

タリバンが記者会見で融和強調、判断割れる各国。もちろん日本は「適切に対応」。

△

前線による大雨、終息に向かうか。なんとか収まって。

### 天気



4910854891913
00054

恐竜科学博
特別公開。奇跡の化石「レイン」、ついに日本へ。
2021 7.17(土)-9.12(日) パシフィコ横浜 展示ホールA

新鮮馬刺を熊本から!!
口いっぱいに広がる旨みと甘味！
テレビCM絶賛放映中!!
食べたい時にいつでも本場の馬刺が食べられる!!
お試し上馬刺セット
1セット 上馬刺(赤身)3人前（お一人様6セットまで）
初回限定 1,990円
まとめ買いがお得！ 冷凍で3カ月は、鮮度そのまま！
同住所に、2セット以上で送料無料
3セット以上で専用しょうゆ1本プレゼント！
厳選大トロ馬刺 980円
ご注文は今すぐ！
フリーコール 0800-600-1616
FAX 0120-698-988
おおしま屋